

目的

ブランド化と  
農業振興を学ぶ研修に

総務産業建設  
常任委員会

(11月12日～14日)

## 1日目

### ●研修地

宮城県亶理町  
人口 約3万4千人  
面積 約73・36㎢

### ●研修内容

#### ◆いちご生産農家への助成

特産品の「いちご」の生産を復活させるために、町内3か所に大型園芸施設を造成・建設し、被災農家の営農再建を支援。財源は国の復興交付金事業の活用。施設は無償貸与することで現在営農している。建設等に要した費用は、一切農家負担はなく、復興交付金、生産対策交付金、県町振興総合補助金を活用し、いちご生産農家の再建、復旧を図った。

- 「ふれあいセンター」
- 「ふれあいセンター」
- JA内で農産物を販売業により「ふれあい市



場」を震災以降に建設し、農水産物を販売。○震災以降、施設や防潮堤が完成し、復興が進んでいる。

○「感想」  
若い農業者や女性農業者と高校生が交流できるイベントを拡充するとともに、農協等と連携を図りながら、生産現場の取組や消費者の声を積極的に農業施策に反映させ、今後の農業振興に生かすことが重要。

○「感想」  
そのためにも、意欲と能力のある担い手(認定農業者)の育成や農地集積、町の優れた産品のブランドの確立と魅力発信等を強化し、地域の活性化を図りたいと感じた。

## 2日目

### ●研修地

宮城県美里町  
人口 約2万5千人  
面積 約74・95㎢

### ●研修内容

#### ◆耕作放棄地対策

農業委員会、農地最適化推進委員及び事務局職員が一体となり、農地パトロールを行って。耕作放棄地を未然に防ぐため、土地の所有者又は耕作者宅を訪問し、農地の今後の利用方法等について意向を確認し指導する取組を行っている。

#### ◆農産物の6次産業化

個性を生かした魅力ある農業の展開を図る目的で、5か年で町内農産物を用いた20商品を創出する目標を掲げ、付加価値創出支援事業を発足し、事業者の進捗状況に応じ、人材育成、商品開発、販路拡大の3つのステップで支援。

#### ◆人材育成(HOD)

基礎的知識の習得に向けたセミナー、研修会の開催。

(1)「売れる商品」開発塾  
(2)「もっと売れる」ノウハウセミナー。

#### 2. 商品開発(Step)

経費の一部を補助。

#### 3. 販路拡大(Jump)

販売促進を目的にイベント開催、販売支援を推進。

#### ◆農産物のブランド化

1. 目的  
北浦梨の産地としての知名度の向上、販売競争力の強化、農家所得の向上を目指す。

#### 2. 取組

①若手生産者6名を中心にブランド化に向けた検討会、研究会を設立。  
②講師の派遣、ブランド化戦略の作成を行政が支援。

#### ○販売ターゲット

30代以降の女性に設定。

#### ○商品コンセプト

「ちょっとした贈答品」「自分へのご褒美になる商品」

#### ○ブランド商品設定

①品種、糖度、サイズ、価格等の規格

②ロゴ、包材。  
○高糖度梨でイベント試験販売実施  
○販売場所、期間、個数

#### ○行政支援

ブランド化、商品化に係る経費の一部を県補助金で活用。

#### ◆新規就農者対策

国の制度として、農業次世代人材投資事業の活用のほか、美里町新規就農者育成支援条例で、支援金100万円が支給されている。

#### ○感想

6次産業化とブランド化について、PDCAサイクルを回した効果のある活動を展開している。当町でも、はだか麦の品質向上やブランド化の高付加価値化に更に取り組むなど、優れた産品のブランド化や販路開拓、生産力向上に向けて効果的、効果的に施策を推進・強化していくことが重要であると感じた。